

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会主催の「第3回 自治体と事業者の交流会」において、講演しました

平成21年1月27日(火)

開催日： 平成21年1月23日(金)

開催場所： (財)総評会館 千代田区神田駿河台

去る1月23日、当協会 プラスチック容器事業部はプラスチック容器包装リサイクル推進協議会が主催した「第3回 自治体と事業者の交流会」において、市町村のプラスチックベール(分別収集物)品質結果の詳細と推移について、講演しました。

この交流会は平成19年より実施されているもので、本年度で3回目となります。プラスチック容器包装リサイクルに関して、特定事業者としての団体・企業と自治体、またその中間処理を委託されている事業者との間で、交流の場を持ち情報交換することで、相互理解を深め、課題解決の糸口を探るといった趣旨です。

開催当日は自治体から105名、事業者から55名、合計160名が出席し、過去最大の規模となりました。



写真は「第3回 自治体と事業者の交流会風景」

当協会 プラスチック容器事業部 斎藤部付部長は、「容リプラの現状 - ベール品質の現状と課題 - 」と題して講演し、全体として容器包装比率・破袋度は年々向上しているものの、禁忌品の混入率が20年度は47%まで上昇しており、自治体には更なる品質向上への取り組みと継続的な実施、住民へ分別排出ルールの周知徹底をお願いしたい旨が伝えられました。

他に、環境省の基調講演、松山市からも品質改善に関する取り組み内容等の報告があり、主催のプラスチック容器包装リサイクル推進協議会からは、「特定事業者の取り組み - 自主行動計画と3R事例紹介 - 」の報告がありました。

その後、収集の二重袋を減らすには、異物混入率を下げるには、きれい度を上げるには、より良いプラマークにするには、の4つのテーマについて、分科会懇談が実施され、次回の容器包装リサイクル法見直し議論の場へ向けて、自治体側、事業者側から積極的な意見交換が実施されました。